

情報論理工学 研究室

第5回：
局面・駒石・手の表現



1

ゲームAIの作成

- ゲームAI作成には何が必要か？
 - ルール通りに指せる・打てる
 - 合法手の中で強い手を選ぶ
 - プレイヤーの手が合法手か判定できる
 - 合法手を指した・打った後の局面を生成できる
 - 終了判定ができる
 - 得点計算・勝敗判定ができる

2

ルール通りに指せる・打てる

- ルール通りに指せる・打てる
 - これができないとそもそもゲームにならない
 - 動かせない場所に駒を動かす
 - 打てない場所に石を打つ
 - 打てない駒・石を打つ
 - 取れない駒・石を取る
 - 手番では無いのに動く
 - 手番なのに動かない
- でもこれだけでも結構難しい

3

ゲームプログラムの作成

- ルール通りに動くゲームプログラムの作成
 - 必要なクラスを決める
 - 各クラスに必要なメソッドを決める

4

ゲームに必要なクラス

- どんなクラスが必要か？
 - 局面を表現するクラス
 - 駒・石を表現するクラス
 - 入出力を行うクラス
 - 手を表現するクラス
 - 手を指した・打った後の局面を生成するクラス
 - 盤面の評価値を計算するクラス
 - 勝敗判定を行うクラス
 - 様々な定義を行うクラス

5

駒・石を表現するクラス

- 駒
 - 駒の種類
 - 誰の駒か
 - 駒の位置
 - 駒の移動範囲

6

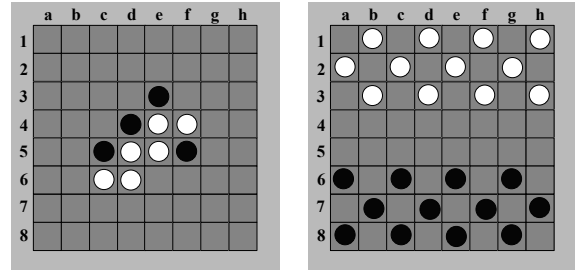
コラム:「駒」と「石」

- 駒
 - 盤上を動かす
 - 「指す」
 - 将棋、チェス、チェッカー、バックギャモン
 - ※「駒」なのに「打つ」こともある将棋は実は特殊な例
- 石
 - 盤上に置く
 - 「打つ」
 - 囲碁、リバーシ、連珠、三目並べの○と×

7

コラム:「駒」と「石」

リバーシは「石」を使うが...



リバーシの道具でチェッカーをやるならそれは「駒」

8

駒・石の表現

- 石の表現
 - 通常は打った位置から動かない
 - 多くの場合、種類のみで表せる
 - ⇒ int型のみで十分な場合が多い
- 駒の表現
 - 駒ごとに動ける範囲が違うことが多い
 - 駒の動ける範囲を表すデータが必要
 - ⇒ 駒を表すオブジェクト型が必要な場合がある

9

石の表現:リバーシ

- リバーシの石
 - 黒か白かのみ
- int 型で表現
 1: 黒石
 -1: 白石
 0: 空きマス

石を表すクラスは作らずに
局面クラスに直接書き込む

```
class Phase { // 局面を表現するクラス
    int[][] board;
    :
    board = new int [8][8];
    :
}
```

10

駒の表現:将棋

- 将棋の駒
 - 駒ごとに様々な属性を持つ
 - 駒の種類
 - どちらの駒か
 - 成駒か生駒か
 - 盤上の駒か持ち駒か
 - 成れる駒か

```
class Phase {
    Piece[][] board;
    :
    board = new Piece [9][9];
    :
}
```

オブジェクトで表現

11

Piece		# 駒表現部
type	: int	# 駒の種類
canMoves	: int[][]	# 駒の移動可能位置
- place	: int[][]	# 駒の位置
- owner	: int	# 駒の持ち主
- value	: int	# 駒の価値
Piece()		# コンストラクタ
toString()	: String	# 駒の文字列表現を返す
copy()	: Piece	# 駒のコピーを生成
canPromote()	: boolean	# 成れる駒か
promote()	: void	# 駒を成る
promote (type : int)	: void	# 駒を指定した駒になる
getOwner()	: int	# 駒の持ち主を返す
isPromote()	: boolean	# 成駒か生駒かを返す
getValue()	: int	# 駒の価値を返す

12

駒表現の例:将棋

```

Class Piece {
  int type; // 駒の種類
  /*
  駒の種類、
  先手駒か後手駒のどちらであるか、
  生成か成駒のどちらであるか、等を表す
  */
  static int[][] canMoves; // 各駒が動ける方向
  /*
  駒の種類ごとに、その駒が動ける方向を表す
  その方向へ1マスのみ動けるのか、いくらでも動けるのかも区別する
  */
}
    
```

13

駒表現の例:将棋

駒の種類を表す表を作成する

00	01	02	03	04	05	06	07
	歩	香	桂	銀	金	角	飛
08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F
玉	と	杏	圭	全		馬	龍
10	11	12	13	14	15	16	17
	歩	香	桂	銀	金	角	飛
*1~*8: 生駒							
*9~*F: 成駒							
王	マ	皇	手	手		皇	龍

01~0F: 先手駒
11~1F: 後手駒

14

駒表現の例:将棋

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
歩	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
香	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
桂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
銀	1	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0
金	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
角	2	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0
飛	0	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0
玉	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0

各駒の動ける方向を定義する
0: その方向へは動けない
1: その方向へ1マス動ける
2: その方向へいくらでも動ける

15

駒表現の例:将棋

```

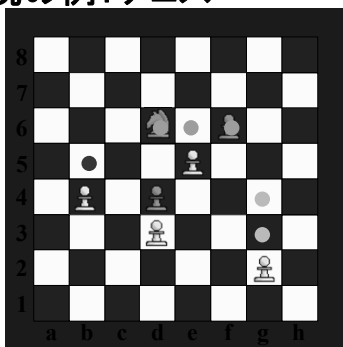
if (移動可能[前] == 1) {
  if (盤[x][y-1] == 空)
    (x,y-1)へ移動可
  else if (盤[x][y-1] == 敵駒)
    (x,y-1)へ駒を取って移動可
} else if (移動可能[前] == 2) {
  for (v=y-1; 盤[x][v]==空; --v) {
    (x,v)へ移動可
  }
  if (盤[x][v]==敵駒) {
    (x,v)へ駒を取って移動可
  }
}
    
```

16

駒表現の例:チェス

ポーンの移動

- 前方のマスが空
いていれば1マス
進める
- 斜め前に敵駒が
あればその駒と
取って進める
- 初期位置から移
動していないポ
ーンは2マス進める



場合分けが必要

17

駒表現の例:チェス

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
P	0	0	0	0	0	4	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0
R	0	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
B	2	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
Q	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
K	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

0: その方向へは動けない
1: その方向へ1マス動ける
2: その方向へいくらでも動ける
3: 敵駒が無い場合のみ1マス動ける
さらに初期位置にいる場合のみ2マス動ける
4: 敵駒がある場合のみ1マス動ける

18

駒の文字列表現を返すメソッド

- toString()メソッド
 - 駒の文字列表現を返す

```
String toString() {
    switch (type) {
        case 01 : return "歩";
        case 02 : return "香";
        case 03 : return "桂";
        :
        case 11 : return "v歩";
        case 12 : return "v香";
        :
        default : return " ";
    }
}
```

19

駒が成れるかを返すメソッド

- canPromote()メソッド
 - 駒が成れるかを返す

```
boolean canPromote() {
    switch (type) {
        case 歩 : case 香 : case 桂 : case 銀 : case 角 : case 飛 :
            return true;
        default :
            return false;
    }
}
```

20

駒を成るメソッド

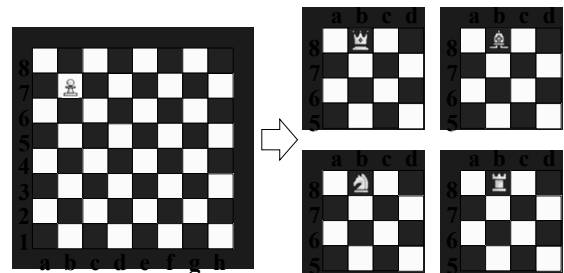
- promote()メソッド
 - 駒を成る

```
void promote() {
    if (!canPromote()) error(); // 成れない駒はエラー
    switch (type) {
        case 歩 : type = と; break;
        case 香 : type = 杏; break;
        case 桂 : type = 圭; break;
        :
    }
}
```

21

チェスの昇格

- 昇格
 - 最前列に到達したポーンはキング以外の任意の駒に成れる



成る駒の種類を指定する必要がある

22

駒を成るメソッド

- promote()メソッド
 - 駒を指定した種類の駒になる

```
void promote (int newType) {
    if (type != PAWN) error(); // 成れるのはポーンだけ
    type = newType;
}
```

23

局面を表現するクラス

- 局面
 - 変数
 - 盤上にある駒・石の種類と位置
 - 持ち駒
 - 先手・後手
 - 同一局面になった回数
 - メソッド
 - 表示
 - コピー
 - 駒・石の初期配置
 - 同一局面か？

24

	Phase	# 局面表現部
board	: int[][]	# 盤面
turn	: int	# 手番
- value	: int	# 局面的評価値
- captured	: int[]	# 持ち駒
- lastMove	: Move	# 直前の手
Phase ()		# コンストラクタ
show()	: void	# 盤面表示
copy()	: Phase	# 局面のコピーを生成
set (piece : Piece, place : int[][])	: void	# 指定した駒を配置
initiallySet()	: void	# 駒を初期配置
equals (phase : Phase)	: Boolean	# 局面の同一判定
nextPhase (move : Move)	: Phase	# 1手後の局面を生成
isWin()	: int	# 勝敗判定
getValue()	: int	# 局面的評価値

25

盤面の表現

- 盤面の表現
 - 盤面は2次元配列で表現できる

```
int board[][] = new int[3][3];
```

○	×	
×		
○		

1	-1	0
-1	0	0
1	0	0

○: 1
×: -1
空: 0

26

盤面の表現

使用する駒・石が単純なものなら
int 型で表現するのが簡単

初期値無し (三目並べ)

```
int[][] board = new int [3][3];
```

三目並べの場合
空=0, ○=1, ×=-1

初期値有り (将棋)

```
int[][] board = {{12, 13, 14,...},
                 {00, 17, 00,...},
                 {11, 11, 11,...}}
```

将棋の場合
空=00,
歩=01, 香=02, 桂=03, ...
馬=11, 象=12, 王=13, ...

27

盤面の表現

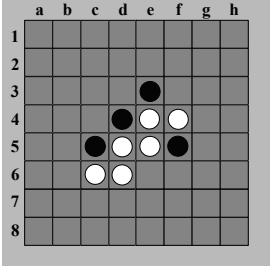
複雑な駒・石を使用する場合は
駒を表すオブジェクト型の配列にする

```
駒[][] 盤 = new 駒 [9][9];
```

```
駒[][] 盤 = {{new 駒(香), new 駒(桂), new 駒(銀), ...
              {null,          new 駒(飛), null,      ...
              {new 駒(歩), new 駒(歩), new 駒(歩), ...
              :
```

28

盤面表現の例:リバーシ



黒番

```
board [][] = {
  {0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0},
  {0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0},
  {0, 0, 0, 0, 1, 0, 0, 0},
  {0, 0, 0, 1, -1, -1, 0, 0},
  {0, 0, 1, -1, -1, 1, 0, 0},
  {0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0},
};
turn = 1;
```

29

盤面表現の例:リバーシ

多くのゲームでは盤面を一回り大きくして
周囲を「壁」にしておくとう便利

```
board [][] = {
  {∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞},
  {∞,0, 0, 0, 0, 0, 0, 0,∞},
  {∞,0, 0, 0, 0, 0, 0, 0,∞},
  {∞,0, 0, 0, 0, 1, 0, 0,∞},
  {∞,0, 0, 0, 1, -1, -1, 0,∞},
  {∞,0, 0, 1, -1, -1, 1, 0,∞},
  {∞,0, 0, 0, 0, 0, 0, 0,∞},
  {∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞},
};
```

30

盤面表現の例:リバー

「壁」を用いない場合

```

if (盤[x][y-1]==白) {
    /* 上方方向に白石が続く限り探索 */
    for (v=y-1; v<=0; --v) {
        if (盤[x][v] != 白) break;
    }
    if (v<0) { /* 盤外の場合 */
        上方方向の石はひっくり返せない
    } else if (盤[x][v]==黒) {
        間の石をひっくり返す
    } else { /* 空マスの場合 */
        上方方向の石はひっくり返せない
    }
}

```

31

盤面表現の例:リバー

「壁」を用いる場合

盤外に出たかの判定が不要

```

if (盤[x][y-1]==白) {
    /* 上方方向に白石が続く限り探索 */
    for (v=y-1; 盤[x][v]==白; --v);
    if (盤[x][v]==黒) {
        間の石をひっくり返す
    } else { /* 空マスまた壁の場合 */
        上方方向の石はひっくり返せない
    }
}

```

32

盤面表現の例:将棋

「壁」を用いない場合

```

/* 上方方向に空マスが続く限り探索 */
for (v=y-1; v<=0; --v) {
    if (盤[x][v] == 空マス)
        (x,v)へ移動する手を合法手に加える
    else break; /* 自駒か敵駒がある場合 */
}
if (v<0) {
    壁に到達した
} else if (盤[x][v]==敵駒) {
    (x,v)の駒を取る手を合法手に加える
} else { /* 自駒の場合 */
    (x,v)へは移動できない
}

```

33

盤面表現の例:将棋

「壁」を用いる場合

```

/* 上方方向に空マスが続く限り探索 */
for (v=y-1; 盤[x][v]==空; --v) {
    (x,v)へ移動する手を合法手に加える
}
if (盤[x][v]==敵駒) {
    (x,v)の駒を取る手を合法手に加える
} else { /* 自駒または壁の場合 */
    (x,v)へは移動できない
}

```

34

盤面表現の例:チェス

```

{∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,0,0,0,0,0,0,0,0,0,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,0,0,0,0,0,0,0,0,0,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,0,0,3,0,0,0,0,0,0,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,0,0,0,0,0,0,0,0,0,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,0,0,0,0,0,0,0,0,0,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,0,0,0,0,0,0,0,0,-3,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞},
{∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞,∞}

```

ナイト ♞ は離れたマスに飛べる
壁を二重にしておく

35

ヘクスマップの場合の盤面表現

00	20	40
11	31	
02	22	42
13	33	
04	24	44
15	35	
06	26	46
17	37	
08	28	48

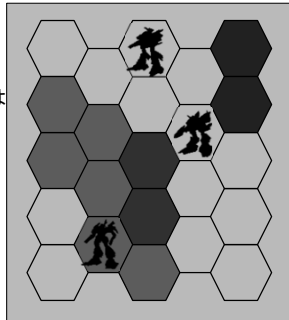
六角形はサイズ1*2の長方形で表現できる

36

盤面の表現の例: バトルテック

バトルテック

- ・ 巨大ロボットの戦闘ゲーム
- ・ 各ロボットの武装・装甲等はゲーム中に変化



37

盤面の表現の例: バトルテック

機種: フェニックスホーク

重量: 45t

移動

歩行	走行	ジャンプ
6	9	6

武器

武器	威力	射程	弾薬	位置	破壊
大型レーザー	8	15	-	右腕	
中型レーザー	5	9	-	右腕	×
中型レーザー	5	9	-	左腕	
マシンガン	2	3	192	左腕	

装甲

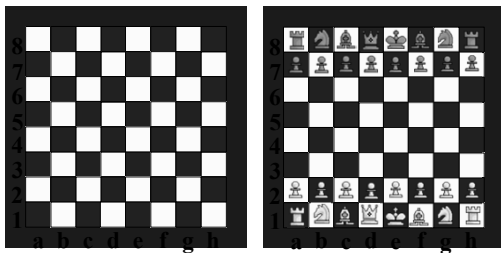
頭	正面	背面	右腕	左腕	右脚	左脚
6	23	5	0	10	15	9

各駒(ロボット)はオブジェクトで表現

38

局面クラスのコンストラクタ

- コンストラクタは2種類作っておくと便利
 - 空マスのみの盤面を生成
 - 初期局面の盤面を生成



39

コンストラクタの例

```
public class Phase () {
    int[][] board; // 盤面
    int turn; // 手番
    int value; // 評価値
    Move lastMove; // 直前の手

    Phase() {
        board = new int [SIZE][SIZE];
        for (int[] n : board) for (int m : n) m = EMPTY; // 盤を空白で埋める
        turn = WHITE; // 先手は白番
        value = 0; // 初期状態では評価値は0
        lastMove = null; // 直前の手は無し
    }
}
```

40

コンストラクタの例

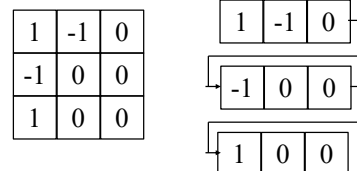
```
Phase (int setType) {
    switch (setType) {
        case 0 : // 引数が0なら空白の盤を作成
            board = new int [SIZE][SIZE];
            for (int[] n : board) for (int m : n) m = 0; // 盤を空白で埋める
            break;
        case 1 : // 引数が1なら初期配置の盤を作成
            board = {{R, N, B, Q, K, B, N, R},
                    {P, P, P, P, P, P, P, P},
                    {0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0},
                    :
                    :
            };
            break;
    }
}
```

41

1次元配列での表現

盤面は1次元配列で表現してもいい

int a[X][Y] int b[X*Y]



座標 (i, j) は i+jX で表現する (1, 2) = 7

方向 (u, v) も u+vX で表現する (-1, +1) = 2

42

1次元配列での表現

- 1次元配列を使う利点
 - 2次元配列よりも処理が速い
 - 座標を数値1つで表現できる
 - 方向も数値1つで表現できる
 - clone()メソッドでコピーできる
- 1次元配列を使う注意点
 - 端の処理に注意が必要
 - 座標・方向の対応に注意が必要
 - 1次元でもオブジェクト型の配列はclone()では無理

43

1次元配列での表現の例:3目並

```
int a[10];
```

7	8	9
4	5	6
1	2	3

(a[0]は使用しない)

```
int place;
while (true) { // 適切な位置が選択されるまでループ
    String inputString = keyBoardScanner.next();
    try {
        place = Integer.parseInt (inputString);
    } catch (NumberFormatException e) {
        continue; // 整数以外
    }
    if (place < 1 || 9 < place) {
        continue; // 範囲外
    }
    break;
}
```

座標の入力が
1回ですむ

44

局面の表示

- show()メソッド
 - 盤面、持ち駒、手番等を表示する

```
void show() {
    for (int i=0; i<SIZE; ++i) {
        for (int j=0; j<SIZE; ++j)
            System.out.print (board[i][j]);
        System.out.println();
    }
    System.out.println (turn);
    :
}
```

45

局面のコピー

- copy()メソッド
 - 盤面、手番、持ち駒等を全てコピーする
(注意)盤面に2次元配列を用いている場合は要素ごとにコピーする必要がある

46

局面のコピー

```
Phase copy() {
    Phase newPhase = new Phase();
    for (int i=0; i<SIZE; ++i)
        for (int j=0; j<SIZE; ++j);
        newPhase.board[i][j] = this.board[i][j];
    newPhase.turn = this.turn;
    newPhase.value = this.value;
    :
    return newPhase;
}
```

要素ごとに
コピー

47

局面のコピー

盤面が1次元配列で表現されている場合

```
Phase copy() {
    Phase newPhase = new Phase();
    newPhase.board = this.board.clone();
    newPhase.turn = this.turn;
    newPhase.value = this.value;
    :
    return newPhase;
}
```

1次元配列なら
clone()メソッドでいい

48

駒・石の配置

- set()メソッド
 - 指定した駒・石を指定の位置にセットする

```
void set (int type, int x, int y) {  
    board [x][y] = type;  
}
```

```
void set (int type, int x, int y) {  
    board [x][y] = new Piece (type);  
}
```

49

駒・石の削除

- remove()メソッド
 - 指定した位置の駒・石を削除する

```
void remove (int x, int y) {  
    board [x][y] = EMPTY;  
}
```

将棋では、取った駒を
持ち駒に加える処理も必要

50

駒・石の移動

- move()メソッド
 - 指定した位置の駒・石を指定した位置に移動する

```
void move (int x, int y, int u, int v) {  
    board [u][v] = board [x][y];  
    board [x][y] = EMPTY;  
}
```

51

駒・石の全削除

- clean()メソッド
 - 全ての駒・石を削除する

```
void clean () {  
    for (int i=0; i<SIZE; ++i)  
        for (int j=0; j<SIZE; ++j)  
            board [i][j] = EMPTY;  
}
```

52

駒・石の初期配置

- initiallySet()メソッド
 - 駒・石を初期位置にセットする

```
void initiallySet () {  
    clean();  
    board [1][1] = ROOK;  
    board [2][1] = KNIGHT;  
    board [3][1] = BISHOP;  
    :  
}
```

53

局面の同一判定

- equals()メソッド
 - 同一の局面か判定する

```
boolean equals (Phase phase) {  
    for (int i=0; i<SIZE; ++i)  
        for (int j=0; j<SIZE; ++j)  
            if (this.board[i][j] != phase.board[i][j])  
                return false; // 1箇所でも異なればfalse  
    if (this.turn != phase.turn) return false;  
    :  
    return true; // 全て同じならtrue  
}
```

54

1手後の局面を生成

- nextPhase()メソッド
 - 指定した手を指した後の局面を生成する

```
Phase nextPhase (Moves nextMoves) {
    Phase nextPhase = this.copy(); // 現在の局面をコピー
    nextPhase.move (nextMoves); // 指定した手を指す
    nextPhase.turn = !this.turn; // 手番を交代する
    :
    return nextPhase;
}
```

55

勝敗判定

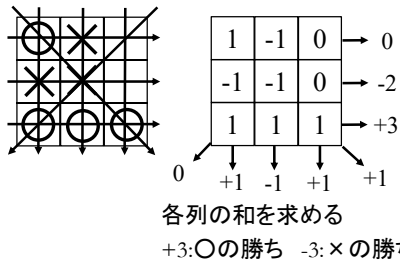
- isWin()メソッド
 - 勝敗判定する

```
int isWin () {
    勝敗判定を行う
    先手勝ちなら1, 後手勝ちなら-1,
    まだ勝負がついていないなら0を返す
}
```

56

3目並べの勝利判定

- 盤面の勝利判定
 - 縦横斜めの各列で○×が3つ並んだか調べる



57

局面の評価値

- getValue()メソッド
 - 局面の評価値を返す

```
int getValue () {
    現在の局面からどちらが優勢かを返す
    先手優勢なら正、後手優勢なら負の値
    先手勝ちなら+∞、後手勝ちなら-∞
}
```

58

局面の評価値

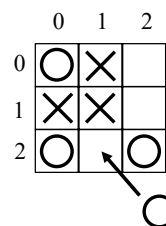
- getValue()メソッド
 - 指定した手数を先読みした上で局面の評価値を返す

```
int getValue (int depth) {
    現在の局面からdepth先まで読んでどちらが優勢かを返す
    先手優勢なら正、後手優勢なら負の値
    先手勝ちなら+∞、後手勝ちなら-∞
}
```

59

次の手を表現するクラス

- 次の手
 - 駒・石の種類
 - 動かす・置く位置



```
class Puts {
    int[] place;
    int type;
}
```

place = {1, 2}
type = NOUGHT

60

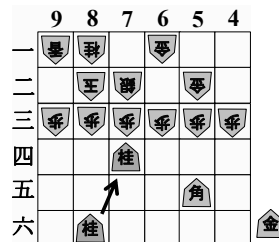
次の手を表すクラス

```
class Puts {
    int[] place; // 石を置く位置
    int type; // 置く石の種類

    Puts (int[] place, int type) {
        this.place = place.clone();
        this.type = type;
    }
}
```

61

次の手を表すクラス



8六の桂を7四へ移動

```
class Moves {
    int[] beforePlace;
    int[] afterPlace;
    int type;
}
```

```
beforePlace = {8, 6}
afterPlace = {7, 4}
type = KEIMA
```

62

次の手を表すクラス

```
class Moves {
    int[] beforePlace; // 駒の元の位置
    int[] afterPlace; // 駒を動かす位置
    int type; // 動かす駒の種類

    Moves (int[] beforePlace, int[] afterPlace) {
        this.beforePlace = beforePlace.clone();
        this.afterPlace = afterPlace.clone();
        this.type = board [beforePlace];
    }
}
```

63

手の同一判定

- equals() メソッド
 - 同一の手か判定

```
boolean equals (Moves moves) {
    if (this.beforePlace != moves.beforePlace)
        return false; // 1箇所でも異なればfalse
    if (this.afterPlace != moves.afterPlace)
        return false;
    if (this.type != moves.type)
        return false;
    :
    return true; // 全て同じならtrue
}
```

64

合法手の判定

- isLegalMoves()メソッド
 - 合法手かどうか判定する

```
boolean isLegalMoves () {
    ルール上認められる手を返す
    動かせない駒を動かす、動かせない位置に動かす、
    王手を放置している、等の場合はfalseを返す
}
```

65

合法手を生成するクラス

- 与えられた局面で可能な合法手を生成する
 - 合法手リストを返す
 - 合法手リストに指定した手を加える
 - 合法手リストから指定した手を取り除く

66

```

GenerateMoves          # 合法手生成部
- phase                : Phase    # 局面
- MovesList            : ArrayList # 合法手のリスト
  GenerateMoves (phase : Phase) # コンストラクタ
- addMoves (moves : Moves) : void  # リストに手を加える
- removeMoves (moves : Moves) : void # リストから手を取り除く
- removeSelfMate ()      : void    # リストから自殺手を取り除く
- generateMoves (place : int[]) : void # 指定の位置にある駒を動かす手をリストに加える
- generatePuts (type : int)   : void # 指定した種類の石を打つ手をリストに加える

```

67

指定した駒を動かす手を生成

```

generateMoves (2, 4);

```

2四の銀を動かす手をリストに加える

- ▲ 3三銀成 : Moves (2,4,3,3, t)
- ▲ 3三銀不成 : Moves (2,4,3,3, f)
- ▲ 2三銀成 : Moves (2,4,2,3, t)
- ▲ 2三銀不成 : Moves (2,4,2,3, f)
- ▲ 1三銀成 : Moves (2,4,1,3, t)
- ▲ 1三銀不成 : Moves (2,4,1,3, f)
- ▲ 1五銀 : Moves (2,4,1,5)

68

指定した駒を打つ手を生成

```

generatePuts (FU);

```

歩を打つ手をリストに加える

- ▲ 6二歩 : Puts (FU, 6, 2)
- ▲ 5二歩 : Puts (FU, 5, 2)
- ▲ 6三歩 : Puts (FU, 6, 3)
- ▲ 5三歩 : Puts (FU, 5, 3)
- ▲ 2三歩 : Puts (FU, 2, 3)
- ▲ 5四歩 : Puts (FU, 5, 4)
- ▲ 6五歩 : Puts (FU, 6, 5)

69

自殺手を削除

```

removeSelfMate ();

```

△ 2三同金以外の手をリストから取り除く

▲ 2三歩まで

70

合法手を生成

```

class GenerateMoves {
  ArrayList<Moves> movesList;

  GenerateMoves (Phase phase) {
    movesList = new ArrayList<Moves>;
    for (int i=0; i<SIZE; ++i) { // 盤上の各駒を動かす手をリストに加える
      for (int j=0; j<SIZE; ++j) {
        movesList.add (generateMoves (i, j));
      }
    }
    for (int type : acapturedList) { // 持ち駒を打つ手をリストに加える
      movesList.add (generatePuts (type));
    }
    removeSelfMate(); // 自殺手を取り除く
  }
}

```

71

合法手生成: 3目並べ

```

int place;
while (true) { // 適切な位置が選択されるまでループ
  String inputString = keyBoardScanner.next();
  try {
    place = Integer.parseInt (inputString);
  } catch (NumberFormatException e) {
    continue; // 整数以外
  }
  if (place < 1 || 9 < place) continue; // 範囲外
  if (a[place] != 0) continue; // 空マスではない
  break;
}

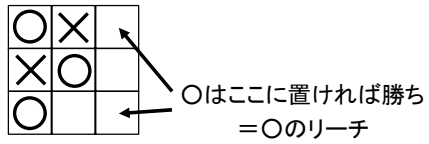
```

(a[0]は使用しない)

72

宿題:3目並べのリーチ判定

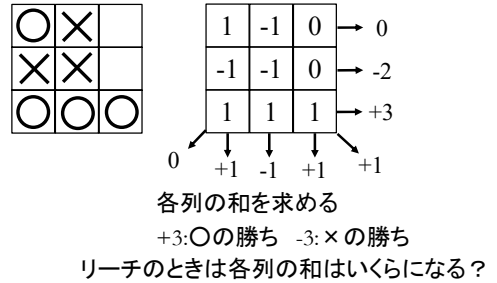
- 3目並べでリーチ(あと1箇所置けば勝てる)の判定方法を考えよ



73

3目並べの勝利判定

- 盤面の勝利判定
 - 縦横斜めの各列でO×が3つ並んだか調べる



74